

ひだまり

令和7年11月4日



引き続き熊に注意！！



民謡学習「なくてはならないもの」

昨日11月3日（月）は、文化の日。5月から継続してきた民謡学習の最後の披露は、来年度『五箇山学舎』に生まれ変わる平中学校として最後の披露でもありました。演目が終わるごとに贈られた大きな拍手。最後の拍手は緞帳が下がりきるまで、笑顔で手を振る生徒たちに惜しみなく続けました。きっと、この拍手こそが、地域の伝統を受け継ごうとする中学生の次なる原動力となる、「なくてはならないもの」なのだと思います。



もう一つ、「なくてはならないもの」として、ずっとありがたく思っていたことがあります。地域保存会の講師の先生方のご指導はもちろんです。どの民謡発表も、準備の面で多分に支えていただいています。左の写真は、発表当日に向けて、持ち運ぶ衣装や小物をそろえている最中の様子です。また、衣装の着付けにも大人の手と時間を要し、毎回、発表会場まで講師の先生や保護者の方に駆けつけていただいています。本番さながらのリハーサルの合間にも、手直ししていただいている様子が左下の写真です。写真にはありませんが、動くたびにずれてしまいがちな、男子の刀の向きや傘の角度まで、細心の注意を払って修正していただきました。直前の舞台袖でも、立ち位置の

最終調整があったことを聞き、民謡の技術だけではない、「人に伝える上で、最善を尽くすこと」も学ばせていただく、大変貴重な学習であったと実感しています。

「毎年この発表を楽しみにしている」

「万博での輪踊りをもう一度体験しようと来てみました」

「子供のころ、音楽の授業で歌った覚えはあるけど、本物を聴けると楽しみに来ました」

修学旅行先の京都でも、冒頭の拍手と同じ「なくてはならないもの」として、来場された方から温かいお言葉をいただいています。

このような学びを、長年にわたり支えていただいている地域保存会の方々をはじめ、すべての関係者のみなさまに、あらためて感謝申し上げます。